



優 秀 賞

長門に甦る「墓標の博物館」・大寧寺

調査・計画部門



大寧寺は 600 年の歴史を持つ曹洞宗寺院で、山口県長門市湯本門前に位置する。周辺には湯本温泉、ゲンジボタル発祥地、桜や紅葉の名所があり、多くの来訪者で賑わっている。

大寧寺境内には大内義隆家臣と萩藩上級武家層の墓があり、県指定史跡となっている。墓石も五輪塔、宝塔など日本でみられる石塔形式がほぼ揃っており、墓標の博物館ともいえる。

大寧寺境内墓地は約 6000㎡の斜面地に 250 基程の墓石があったが、度重なる豪雨により被災し、その多くが流出、転倒したままの状態まで今日に至っている。

本計画では被災した墓地の表面的な修復だけではなく、その根本にある史跡地の水環境、植生環境、利用環境（散策・景観）を改善して史跡地の恒久的な修復を図るとともに、周辺資源とのネットワークを形成することで相互の付加価値を高めるため

に以下のような提案を行った。

防災面の提案

被災の主たる要因は、豪雨に対応できる排水施設が不備だったことから、当時（大正期を復元時期と設定）なかった砂防的な集水施設、排水路の新設、流入する雨量に対応した水路断面の確保などを提案した。

植生改善の提案

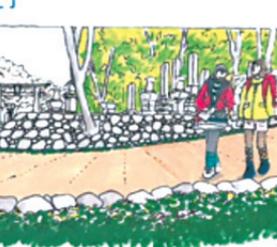
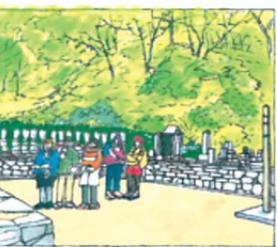
樹木には「美しくやすらぎのある景観の形成」などの効用があるが、史跡地においては悪影響を及ぼす懸念材料となっていたので、史跡と樹木との相反する関係性を見極め、長期的な視点に立った植生改善が必要と考えた。

そこで、樹木の根茎成長による史跡への影響、枯木や空洞化による倒木の危険性、食害被害等の状況を調査し、3つのラン

株式会社アーバンデザインコンサルタント
 棚町修一・堤八恵子・大杉哲哉・小峯裕
 株式会社木村環境デザイン室 木村博志

作品概要

作品名—— 長門に甦る「墓標の博物館」・大寧寺
 ～史跡大寧寺境内墓地環境整備計画
 対象地—— 山口県長門市湯本門前
 発注—— 宗教法人 大寧寺
 事業目的—— 豪雨により荒廃した大寧寺境内墓地を本来の姿を取り戻し、来訪者の歴史学習の場、憩の場など魅力的な活用場となるような環境整備計画の立案を目的とする。
 事業体制：— 「大寧寺境内保存修復・復元検討委員会」(学識経験者、行政、大寧寺により構成)での審議を踏まえ、計画案の立案を行った。
 協働者等—— (株)木村環境デザイン室
 事業期間—— 平成23年3月～平成24年3月
 事業規模—— 6,000㎡



①境内での花見 ②紅葉に彩られたお地蔵 ③境内横のゲンジボタル発祥地 ④湯本温泉 ⑤山あいに行む大寧寺 ⑥大内義隆主従の墓地 ⑦荒廃した墓石群 ⑧洗濯された墓道 ⑨倒木により被災した墓石

クに分類して、今後の伐採、整枝などの提案を行った。

- ・ Aランク：史跡に直接悪影響を及ぼしている樹木
- ・ Bランク：樹木自体に空洞化等の不具合がある樹木
- ・ Cランク：根茎が石積の結束をより強固にしている樹木

史跡修復手法の提案

大寧寺に関するこれまでの資料に基づき、史跡の歴史的価値を活かしながら史跡の要素ごとに下記のような修復方法を提案した。

- ・ 石垣は史跡地内の石垣を参考にした石組みとする。
- ・ 墓石は部材の特徴を見極めて組合せて、修復する。
- ・ 墓道は石畳修復を基本とし、年配者等に配慮する。

学習・観光・日常生活空間としての付加価値づくりの提案

春の桜、夏の新緑やゲンジボタル鑑賞、秋の紅葉、冬の雪景

色など四季折々の彩りの中での日常の散歩やレクリエーションを楽しみ、「墓標の博物館」を探访することで歴史の魅力に触れ、湯本温泉などの観光資源とのネットワークにより満足度を高められるような付加価値づくりを提案し、地域の活性化に貢献することを目指した。

作品評

この作品は、山口県長門市に古くから伝わる毛利氏ゆかりの寺院における境内墓地の修復を中心とした全体整備計画である。裏山から流下する水勢や倒木ならびに樹木根茎の発達等により、中世以来の歴史を持つ多くの墓標等が崩落・散在していた。地元識者による委員会の歴史的考察や指導を踏まえつつ、全体の防災計画、利用計画など単に従前環境を復元するのではなく、今後のあり方を踏まえた提案がされている。

既存木の状況調査に代表される詳細な調査と防災計画に結実した丁寧な検討が行われ、周辺観光施設とのネットワーク利用に関する提案まで幅広い提案・成果の内容に評価が集まった。ホームページを中心に、地元の関心も高く、今回の計画に対する市民評価も良好である。また、提出された資料も解りやすく、系統的に整理されていた点も評価され、優秀賞となった。